

糸開発とコスト削減図る

ブームの「次の一手」へ



宮本社長

北陸産地の大手機業、丸井織物（石川県鹿島郡）の宮本徹社長は今後、国内外同業他社との競争激化やファッショントレンドの変化を意識し、細織度糸を使った高密度織物の高度化と、コスト競争力の向上を図る意向を示す。

震災後はエアバッグ向け織物の受注が半減したものの、全体としては活況を呈しており、107

ら現在まで24時間フル稼働が続く。スポーツカジュアル向け高密度織物がけん引する。

同社では、2006年に策定した「スポーツ素材創造企業宣言」以降、軽量で伸縮性、吸汗性に優れた「フレックススキンプラス」や各種高密度織物の開発が加速するなどスポーツカジュアル分野への傾注が著しい。生産内訳は現在、同分野が6割、エアバッグや研磨布などの非衣料が2割、ポリエステル裏地とアウト向けがそれぞれ1割を占める。

宮本社長は「軽くて薄い高密度織物の需要が消

えることはないが、今のファッショントレンドが

いつまで続くかは分からない」とし、「次の手」を打つ。それが、高密度織物の高度化とコスト競争力の向上。前者では、原糸メーカーとの協業によって「様々な細織度糸を開発」し、後者では、中国、台湾の追い上げを

意識し、「ハード、ソフト両面でロスの低減とコスト削減を図る」。年内にウオータージェット織機約150台を生産性の高いタイプに入れ替える予定で、これもコスト競争力向上策の一環を担う。